

特集「川崎市国際交流協会・センターはこんなところ!!」

今年4月、(財)川崎市国際交流協会は、国際交流センターを共同管理・運営するパートナーが変わり、心機一転の1年が始まりました。さらに多くの市民の皆様に、私たちの事業をもっと知っていただくとともにご参加いただけるよう、内容の充実を図っていきます。

当協会で開催する主な講座やイベント、事業内容をご紹介します。

I 市民がつくる国際交流・国際協力を応援します。

～理解し合い、協力し合う多文化共生のまちへ～

- 姉妹・友好都市をはじめとする国際交流事業の支援
- 「インターナショナル・フェスティバルinカワサキ」の共同開催
- 民間団体の国際交流・支援活動の推進(情報提供・補助金などの支援)



II みんなで参加し支え合う地域をつくりまします。

～ボランティア・人材の育成～

- 市内大学などと協力し、多文化共生社会推進のためのボランティア活動支援
- ボランティアの登録と活動支援(登録ボランティアの種類＝通訳、翻訳、ホームステイ、ホームビジット、日本語講座、国際理解教育支援、保育、編集、その他)



III さまざまな国・文化に関する興味深い講座を開きます。

- 語学講座(英語、中国語、ハングル、フランス語、ドイツ語、イタリア語など)
- 外国人のための日本語講座、日本語スピーチコンテスト
- 日本語・英語・中国語による国際理解講座、文化理解講座



IV 諸外国の情報及び資料の収集・提供をします。

- 外国人窓口相談事業、多言語による情報サービス事業(英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語及び「やさしい日本語」)
- 他地区の国際交流協会や団体との情報交流・交換
- 図書・資料室での国際関係資料の充実



お気軽にご相談ください。

※その他、川崎市等から協会の目的に資する事業を受託します。

川崎市国際交流センターの指定管理者について

指定管理者とは、地方公共団体が指定する者(民間事業者を含む)に、ホール、駐車場などの公の施設の管理・運営を代行させる制度です。

平成18年度から平成23年3月まで、川崎市国際交流協会と民間企業の共同事業体が指定を受けていましたが、期日満了に伴い、川崎市が外部審査員による選考を行い、平成23年4月から平成28年3月までの5年間の指定管理者は、当協会と株式会社東急コミュニティーとの共同事業体が指定されました。みなさまへの一層のサービス向上に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

平成22年度の事業から ～「外国人留学生修学奨励金」～

(財)川崎市国際交流協会では、川崎市に居住する外国人留学生(大学生と専門学校生)を支援するため、毎年「修学奨励金」を支給しています。

平成22年度は、44名の留学生(出身国:中国、韓国、台湾、タイ、香港、インドネシア)が受給者に選ばれました。また、当協会を通じて、全員がボランティアとして川崎市内の国際交流の活性化のために様々な活動に参加しました。



▲昨年秋、センターホールで開催されたコンサートを手伝ってくれた受給者3名(右端は登録ボランティア・寺田さん)

受給者の声

- 「日本に来てから大人との交流会はあったが、子どもたちと遊べる交流は初めてだった。これからは子どもたちとも触れ合える交流イベントが増えたらいいと思う。」(韓国出身)
- 「日本の方がこんなに上手に中国語を喋れること、中国の文化を理解していることに驚いた。」(中国出身)
- 「いろいろな学校から来た留学生と一緒に活動してみて、国が違っても気持ちは同じだと感動した。」(タイ出身)
- 「日本の高校生と触れ合う機会は滅多にないのでよかった。自分の国の餃子の作り方を教えながら、高校生たちと会話ができた。若者言葉も教えてもらった。」(台湾出身)
- 「(ボランティアの作業は)大変だったが、自分が他の人の役に立てるということはとてもうれしい。こういう経験はなかなか自分の国ではできない。」(インドネシア出身)

22年度に実施した国際交流活動:

県内、市内のイベント、成人式の通訳、民族楽器演奏、小学校での国際理解教育支援、地域活動、日本語スピーチコンテスト、インターナショナル・フェスティバルinカワサキ、国際理解講座など

地震直後、6ヶ国語による外国人相談窓口を特設!

3月18日(金)より21日(月)までの4日間、地震や停電、出国・帰国にかかわること、放射能に対する心配等についての外国人対象の特別相談窓口を開設しました。英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、タガログ語、スペイン語の6ヶ国語での相談を、延べ11人の相談員が対応しました。

放射能に対する不安や、出産間近で他の町への移動希望や、テレビの情報を知りたいなど、被災地からの電話も含め30件余りの相談がありました。このことは、毎日新聞や東京新聞等に取り上げられ、関係機関からの問合せもあり、関心の高さがうかがわれました。

この他に、関東一円の協力ネットワークとして、被災地や川崎市からの震災関連の文書翻訳の依頼に応え、数十件の翻訳をメール便で送るなど、外国人支援活動にも協力しました。

「ボランティアの皆さんありがとう」センター長 迎 スミ子

これらの取り組みには、登録ボランティアの方々の積極的なご協力が多数あったことを申し添えさせていただきます。ボランティアの皆さんが、とても快く翻訳を受けてくださったことに本当に感激しました。ありがとうございました。

川崎市国際交流センターからのお知らせとお願い ～この夏みんなで節電を!～

1. 「東日本大震災」による電力不足対策のため、当センターでは、不要電灯を消すなど可能な限り節電に努めております。また、夏季の節電対策に係わる変更等に関しては、改めてご連絡いたします。詳しくは、当協会の「センターだより」やホームページでお知らせします。
2. 外国人の皆さんで、何か困ったことがありましたら、いつでも相談を行っておりますのでご利用ください。
3. 当センターの駐車場には、被災地等からの避難車両を緊急措置としてお預かりしております。駐車場をご利用の皆様には、大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力をいただきますようお願いいたします。